

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。この号をもって、今年度の校長たよりは終了となります。1年間、ご愛読いただき、感謝申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願いします。

□見えないことにこそ、目を向けよう！

□学校でできることを、どこでもできるように！

□1年間の生徒のがんばり～中学部 職業基礎の学習から～

□想像力、創造力～これからの教員に必要なこと～

□見えていないところを、支援してくれる存在～学校運営協議会の意義～

校長 上松 武



令和7年3月19日

チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指し②④ -0319 校長たより-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～



上松 武

□見えないことにこそ、目を向けよう！

- ・3月12日（水）に開催した十日町小との合同学校運営協議会で、次のような挨拶をしました。前日の訪問教育を受けている中学部3年生の卒業式でのことです。

昨日、訪問教育を受けている生徒の卒業式をご自宅で行いました。普段の授業は午後3時すぎから1時間ほど、関節の拘縮を防ぐ手腕の運動や触る、においをかぐ、見るなどの感覚を通した学習に取り組んでいます。いつもお母さんが側にいて、健康状態を見守っています。昨日はちょっと違っていました。普段いないお父さんやお姉さんが卒業式に同席してくれていました。そして、午前11時から



行ったこともあり、中学部3年間で一番いい笑顔で卒業証書を受け取ってくれました。

いくら障がいが高くても、わかっているのかな～と思うほどの反応であっても、しっかりとその場の雰囲気やそこにいる人の息づかいを感じ取っているんだということを、しみじみ感じました。

障がいには様々な状態があります。私は学校に登校してきている子どもたちのことはしっかりと見て、一人一人に応じた教育活動に取り組んできていたと思っていました。しかしながら、「最後だから言わせてもらおうね」と本当に信頼してくれている表情でお母さんがこうお話されました。「先生、世の中にはうちみたいなこういう子がいるってことは、ほとんど知られていないでしょ。でも、実際にはこうして生きていて、家族と暮らしている。こういうふうに生きている子どもや家族がいることにも目を向けてほしい。そんな世の中にしてくださいね」と。

- ・私自身、見ていたと思っていましたが、「見えるものしか見ていなかった。」と痛烈な衝撃を受けました。この言葉は、学校経営はもちろん、私の残りの教職人生の大きな柱になりました。
- ・答えのないこれからの時代に必要な力でもあると思っています。

□学校でできることを、どこでもできるように！

- ・本校の子どもたちは、学校にいる間は、自分から進んで授業の準備や後片付けをしたり、きまりや約束したことを守って行動したりすることをしっかりとやっています。
- ・しかし、家庭や放課後等デイサービス事業所では、必ずしも学校と同じようにできている訳ではないようです。むしろ、その場には相応しくない行動をとっているという話を2学期後半ごろから、聞かれるようになってきました。
- ・「学校でできていることは、場所が変わっても同じようにできること」という基本的な考え方のもと、学級では家庭や事業所と事実の把握と対応策を繰り返し話し合い、指導支援を重ねてきています。
- ・私は、次の3つの質問を事業所にさせてもらい、その結果を全校朝会や学期の始業式・終業式で子どもたちへ伝え、どこでもできることが「**本当の力**」であり、周りの人たちを笑顔に、Happy にすることであることを説明しました。

- ①使いたいおもちゃなどを何も言わずに勝手に取るようなことがありましたか。
- ②玩具などの使ったものの片付けを、みんなで協力してやっていましたか。
- ③決められたルールや約束を守って過ごすことができていましたか。

- ・3つの質問事項は、**人として生涯に渡ってとるべき当然の行動**であると思っと思っています。学校で疲れて事業所に行く場合であっても、登校前に家庭で不調になったとしても、当然とるべき行動です。その時々コンディションなどで守らなくてもいい行動ではありません。『**ダメなことはダメ**』と私たち大人が毅然とした態度で説明し、そうすることの大切さを説いていかなければなりません。身に付けるべきことを身に付けずに大人になり、社会から批判されるとしたら、それは教え切れなかった私たち大人の重大な責任です。

- ・人として守るべきことは、どこにいても、どんな時でも、どんな心理的な状態であっても守らなければなりません。その時々の子どもの状態などに、変な情けをかけることは、かえって誤った学習させるだけです。私たち大人は、そのことを肝に命じるべきです。
- ・繰り返し全校児童生徒に話し、問題意識をもってくれた成果だと思いますが、右上のスライドのように少しずつ変わってきています。

ふゆやすみのやくそく			
学校で できていることを ほかの場所 でも			
①じぶんの できることで まわりの人を えがお にしよう！ Happy にしよう！			
	3/18	2/18	1/13
おうち	 ◎ルール ◎たたかない	×ルール ×たたく	
なごみのいえ	 ◎ルール ◎たたかない	 △ルール △たたく	 がねのまじやう
ケアホームげじよう	 ◎ルール ◎たたかない	 △ルール △たたく	 がねのまじやう
ヒュツケ	 ◎ルール ◎たたかない	 △ルール △たたく	 がねのまじやう

□1年間の生徒のがんばり～中学部 職業基礎の学習から～

- ・中学部の職業基礎は、生徒が「缶バッジ班」と「紙工班」の2つのグループに分かれて、

1つの製品を全員で製作することを通して、次のことを学習してきました。

- ①製作工程の中の自分の役割をしっかりと果たすこと
- ②一定時間、自分に任された作業内容に集中して取り組むこと
- ③「できました。見てください」や「分かりません。教えてください」など、その場に応じた言葉遣いができること
- ④購入してくださる方のことを考えて、丁寧に作業すること
- ⑤使い心地や改良点などを製作工程で生かせるように自分たちで考えて、よりよい製品にしていくこと

- ・缶バッジや油吸い取りパック、竹の一輪挿しなどは、城ヶ丘ふれあいフェスティバルで販売したり、十日町小の学習参観日に無人販売を開催したりして、今年度の売上金額は、**121,560円**でした（缶バッジは、道の駅クロステンや十日町観光協会などでも販売しており、その売上も含まれています）。
- ・先日、今年度最後の職業基礎の授業があり、一人一人の生徒のがんばりが担当教員から報告がありました。そして、代表の生徒がこの一年を振り返って、次のような感想を述べていました。

紙工班では、牛乳パックの解体をしました。30分で60パック切ることができました。新製品にも力を入れて、油吸い取りでは、パックの中に15グラム(の新聞紙を裁断したもの)入れるとちょうどいいことに、たどり着きました。

一輪挿しは、のこぎりを使って竹を加工しました。最高で8本切れました。みんなでつないできた仕事が製品になってうれしいです。

ぼくは、職業基礎の授業に46日中45日と、1回休んだだけでした。仕事に責任をもって休まないでできたことがよかったです。

- ・私たちは製品の出来栄や作業の丁寧さに目を行きがちです。しかし、もっと目を配らなければいけないのは、心の成長ではないかと考えています。「見えないことに眼を向けることを忘れてはいけないし、そのために必要な支援は何かを絶えず考えなければならない」、それがこれからの教育に欠かせないと考えています。



□想像力、創造力

～これからの教員に必要なこと～

- ・今年度の私たちの教育活動を振り返った時に、先生方は次のように自分たちの教育実践を評価し、来年度の「ふれあい子どもたちの姿」を描いています。
- ・来年度、目指すふれあい子どもたちの姿を実現するためには、やはり「見えないことに眼を向ける力」＝「想像力」・「創造力」が必要なのではないでしょうか。
- ・1時間1時間の授業の、その場その場で、子どもたちは何を感じ、何を考えているのかを想像することができなければ、子どもたちに届いて響く支援はできないでしょう。仮にこんなことを感じたり考えていたりしていると分かったとしても、その状況に真に相応しい支援が考えられなければ、子どもたちには何もできないでしょう。
- ・ひと昔前と異なり、決まったやり方や指導方法が通用しません。「こういう気持ちでい

るから」と想像し、「こういう問いかけをしてみる」と創造して働きかける「しなやか

心」が求められると考えています。

- ・そのためには、普段から同僚相手に「見えないことに眼を向けるしなやか心」で接することを実践しなければいけないと思います。
- ・このような考え方を持つことが、これからの教員というよりは、これからの大人に必要なことだと考えます。
- ・「想像力」と「創造力」、これらをお互いに切磋琢磨しながら、来年度もさらなる飛躍の年にしていきたいと思います。

令和6年度のまとめ

成長した姿

- ☐ 相手を思いやって行動する
- ☐ 相手と協力して活動する
- ☐ 他の場所でも同様のことができる（例：昼休みの玩具の片付け）
- ☐ 言われなくとも自分から進んで取り組む
- ☐ どんな場所でも、だれとでも関われる
- ☐ 次の授業でも、家でも、地域でも学んだことをやっている

単元構成や支援の工夫

- ☐ シンプルな活動に、シンプルな手順
- ☐ 個に合った課題設定
- ☐ 「体験する」ことから「体験を自分の力にする」支援（例：支援の引き算）
- ☐ 周りの人に喜んでもらうという学習活動への価値付け

目指したい子どもの姿

- ☐ 自分から考えて動く力、主体性
- ☐ 助けを自分から求めることができること
- ☐ 相手の気持ちを考えて行動すること、関わること

令和7年度の課題

□見えていないところを、支援してくれる存在～学校運営協議会の意義～

	支援内容	学年・教科	令和4年度実績			令和5年度実績			令和6年度実績		
			実施回数	ボラ人数	延べ人数	実施回数	ボラ人数	延べ人数	実施回数	ボラ人数	延べ人数
1	持久走の見守り	全校	8	7	16	8	11	21	11	10	30
2	着付け体験	中	1	7	7	1	7	7	1	6	6
3	邦楽に親しむ会	全校	1	2	2	1	2	2	1	2	2
4	水泳授業の監視	全校	11	8	12	10	9	10	10	10	10
5	木工体験教室	全校	1	3	3	1	6	6	1	4	4
6	花壇の水やり	環境整備	38	12	38	42	12	42	32	11	32
7	家庭生活調理実習	中	4	7	12	5	6	10	3	5	6
8	家庭生活裁縫実習	中	13	6	20	12	6	19	6	5	12
9	教材園の耕作	環境整備	1	1	1						
10	読み聞かせ	全校							1	2	2
11	音楽（深雪甚句）	中	2	4	8				4	7	13
12	地域生活学習	中	3	4	6	3	6	6	3	2	6
合計			83	61	125	83	65	123	73	64	123

- ・今年度も本校の様々な教育活動を支えていただきました。その実績一覧が左の表です。こうして数字を見ると、本当に見えていないところで、多くの方々が様々な教育活動にお力を貸してくださっていることがよく分かります。
- ・支えてくださっているボランティアの方々の声をいくつか紹介します（本校のCSコーディネーターの関口さんから情報提供いただきました）。

ターの関口さんから情報提供いただきました）。

○夏休み 畑の水やり（7月27日（土）～8月25日（日））

- ・朝、少し雨が降ったので、夕のみ来ましたが、雷がなって雨が降り始めました。きゅうりが美味しそうにぶら下がっていたのでいただきます。
- ・トマトは、子どもたちが食べながら水やりです。トウモロコシがかわいそうになっていますね。明日あたり、なす、良さそうですよ。
- （※子どもたちが収穫し切れなかった野菜をぜひ、どうぞということでした。）

○中学部 音楽 民謡を踊ろう（講師の方々の声）

- ・皆さんがとても上手に踊っていたので、驚きました。
- ・皆さんから元気をもらって、私も元気になりました。
- ・3曲（津南あい唄、十日町小唄、深雪甚句）を踊りましたが、皆さん一生懸命に覚えて楽しそうで、良かったです。おお祭りで民謡流しに参加したり、見て楽しめるといいですね。
- ・先日の十日町小と合同学校運営協議会で、委員の十日町小PTA副会長の方が、「うちの娘はスイミングに通っているのですが、ふれあいの丘の子どもたちと交流したことに

ついて、スイミングで一緒に友達とお話をしたそうです。十小にいと当たり前だけ
ど、他の学校とも交流ができて、それを話題にできるって、いいことですね」と発言
してくださいました。

- ・同世代間交流を実施したことによって、他校の友達との会話でふれあいの丘のことが
話題になることはとても嬉しい限りです。

- ・今まで見えていなかった障がいのある子どものことを知るきっかけとなり、友達間で
共通の話題になる、考えてもいなかっただけに、来年以降の取組に期待が持てます。

◎今年度最後の「校長たより」となりました。本校の子どもたちの輝きと、職員の一生懸命さが
伝わったでしょうか。今後も引き続きご支援くださいますようお願いいたします！